

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成23年6月23日(2011.6.23)

【公開番号】特開2010-100(P2010-100A)

【公開日】平成22年1月7日(2010.1.7)

【年通号数】公開・登録公報2010-001

【出願番号】特願2008-158622(P2008-158622)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/1455 (2006.01)

A 6 1 B 5/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/14 3 2 0

A 6 1 B 5/00 N

【手続補正書】

【提出日】平成23年5月11日(2011.5.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検体の計測部位に光を照射する光源部と、

前記光源部から照射され前記計測部位を透過した光を検出する検出部と、

前記検出部による検出結果に基づいて、前記計測部位における血中物質の濃度に応じた情報を算出する信号処理部と、

を有し、

前記信号処理部は、

前記血中物質の濃度に応じた情報に基づいて、被検体の唾液の分泌量を算出し出力することを特徴とする生体光計測装置。

【請求項2】

前記生体光計測装置は、

前記信号処理部から出力された前記分泌量を表示する表示部を有することを特徴とする請求項1記載の生体光計測装置。

【請求項3】

前記信号処理部は、

前記分泌量の時系列変化を前記表示部に表示させることを特徴とする請求項2記載の生体計測装置。

【請求項4】

前記生体光計測装置は、

複数の前記光源部と、複数の前記検出部とを有し、

前記信号処理部は、

複数の前記計測部位における前記分泌量をそれぞれ算出し、

前記表示部に前記複数の計測部位それぞれの前記分泌量の時系列変化を表示させることを特徴とする請求項2記載の生体光計測装置。

【請求項5】

前記信号処理部は、

第一の前記分泌量と第二の前記分泌量との差を算出し、前記表示部に表示させることを特

徴とする請求項 4 記載の生体光計測装置。

【請求項 6】

前記第一の分泌量と前記第二の分泌量は、

被検体のこめかみ部、頬上部、頬下部、顎下部のいずれかあるいは全ての部位における左右それぞれに装着された、第一の前記検出部による前記検出結果と第二の前記検出部による前記検出結果に基づくものであることを特徴とする請求項 5 記載の生体光計測装置。

【請求項 7】

前記生体光計測装置は、

前記光源部を保持するマウスピースを有することを特徴とする請求項 1 記載の生体光計測装置。

【請求項 8】

前記生体光計測装置は、

被検体に刺激を提示する刺激制御装置を備えることを特徴とする請求項 1 記載の生体光計測装置。

【請求項 9】

前記刺激制御装置は、

被検体に刺激を提示する刺激発生装置部と、

前記刺激を発生させるタイミングを制御する制御部と、

前記刺激を提示させるためのデータを記憶する記憶部と、

を備えることを特徴とする請求項 8 記載の生体光計測装置

【請求項 10】

前記信号処理部は、

計測が開始されてから前記刺激が提示されるまでの期間と、前記刺激が提示されてから所定の時間が経過するまでの期間とを一組の計測期間として、前記分泌量の時系列変化を算出することを特徴とする請求項 8 または 9 記載の生体計測装置。